

(12) 米田町地内(兩側路面舗装・昭和七年度施工)

## 明姫國道改良工事概要(承前)

内務省神戸土木出張所長 高西敬義  
工學博士

施工 本工事施工概要を表示すれば次の如し

施工年度	施工區間	施工延長	着手竣工年月日	備考
昭和六年度	明石郡林崎村、大久保村、 魚住村 加古郡二見町、平岡村、 野口村、氷丘村	米 16,622.40	昭和六年五月十六日着手 昭和七年十二月二十九日竣工	橋梁延長 135.47米を含む (16箇所)
昭和七年度	明石市、明石郡林崎村 印南郡米田町、阿彌陀村	5,560.00	昭和七年八月一日着手 昭和八年十二月末竣工	橋梁延長 364.86米を含む (12箇所)
昭和八年度	印南郡阿彌陀村、別所村 飾磨郡御國野村、花田村	7,626.00	昭和八年五月五日着手 昭和九年三月末日竣工豫定	橋梁延長 60.80米を含む (6箇所)
昭和九年度以降 (豫想)	姫路市	約 2,230.00		市川橋を含み計畫中
計	自明石路市 至姫路市	約 32,038.40		加古郡水丘村一部 及加古川町を除く

**【道路工事】 路床工事** 本工事区間中施工済及目下施工中のものを含み約29,800米の内林崎村、大久保村、魚住村、平岡村、野口村、阿彌陀村、御國野村地内等の一部切取箇所を除き殆んど盛土の箇所なるを以て土砂は土質良好なる附近の山畑を選び又は加古川舊堤防或は市川等より人力又は機關車を以て運搬し各種構造物の完了に従ひ逐次路床を形成したり。

**路面工事** 明石市内及之れに接続せる林崎村の一部は路床を充分輾壓し規定路盤を形成したる後厚15種の基礎混凝土を施し表層5種の「ワーレナイトビチュリシツク」舗装を施行せり。

尙高架橋附近急勾配部には路面抵抗を増す爲め「ヒルミックスチア」を施せり。

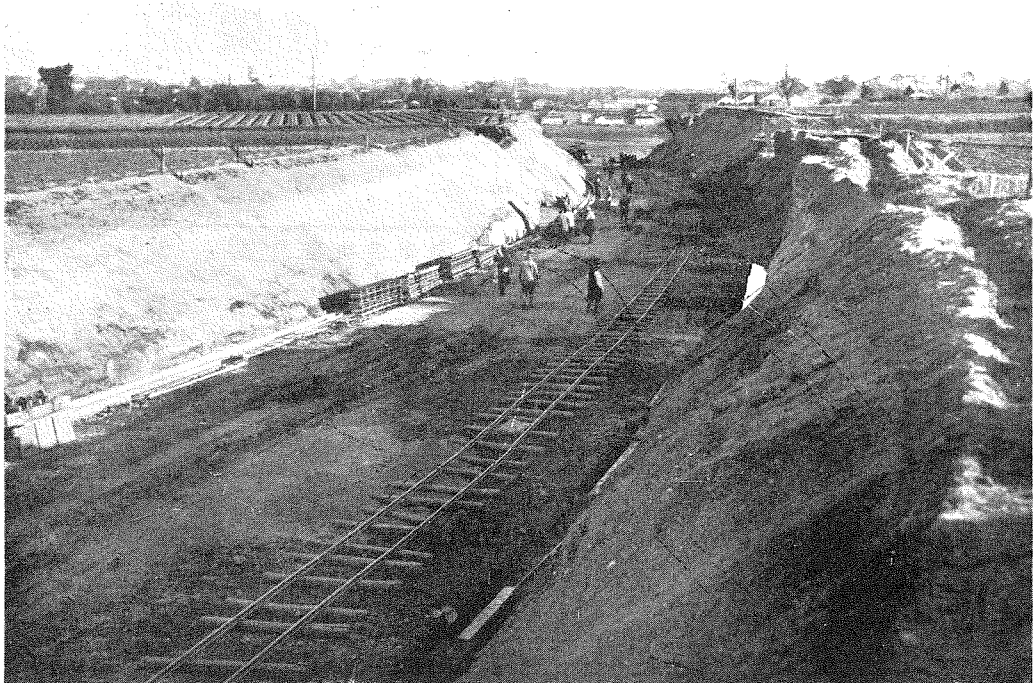
歩道は厚5種の基礎混凝土の上に3種のトベカ式舗装を施工せり、明石郡林崎村より加古郡水丘村に至る間は厚10種乃至15種の下層混

凝土の上に5種の上層混凝土又は膠石を鋪設せり、目地は横断目地のみにして伸縮目地と構造目地とを交互に各10米の間隔に設置し伸縮目地には厚12種「エラストイト」を用ひ、構造目地としては厚0.3種の波形鐵板を用ひ其の頂部は鋪装面より1種低くせり、伸縮目地には直径19種、長1米の鐵棒を「エラストイト」を貫き各1米の間隔に設置し兩側の床版を互に支持せしめたり。

印南郡米田町、阿彌陀村地内には前同様中央6米を二層式混凝土舗装とし構造目地を廢し10米毎に伸縮目地のみ設置せり。床版の接合部に於ける鐵棒は之れを廢し路盤の強固ならざる部分には混凝土の枕木を設けたり。尙交通量多き箇所は中央舗装の兩側に厚さ10種乃至12種の混凝土を施し「シールコート」を施せり、其の他の部分は厚5種の砂利敷を施工す。

盛土高き箇所又は橋梁の取付部分等にて路

(13) 林崎村和坂切取工事狀況(昭和七年度施工)



盤強固ならざる個所には市街地、郊外地とも  
徑 5.5 耗の「クランプ」鐵網を挿入せり。

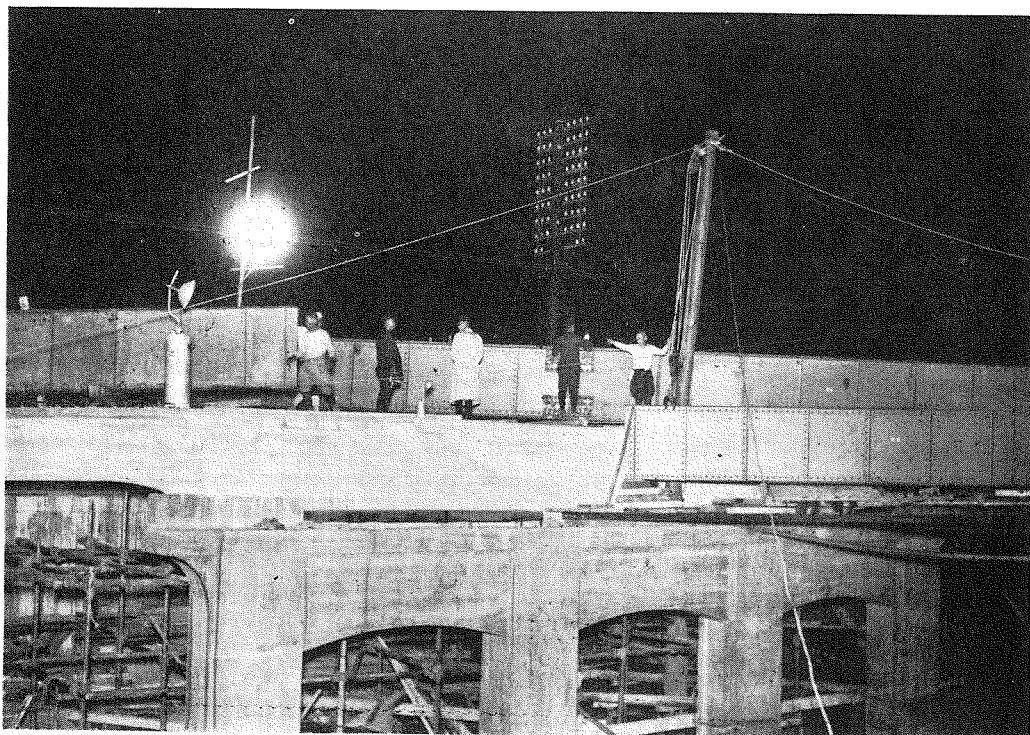
「橋梁工事」明石大橋 明石川大觀橋（舊  
國道橋）より約 100 米上流に架設せるもの  
にして、附近は風景地なるを以て特に様式其他  
に付意を用ひたり。橋長 67.6 米、車道有効幅  
員 9 米、歩道有効幅員兩側各 2 米、橋臺は基  
礎地杭生松丸太、長 3.6 米、末口 20 榑、根固  
栗石、敷均混凝土、軀體は扶壁式鐵筋混凝土  
なり。橋脚は地杭生松丸太長 3.6 米、末口 20  
榑、根固栗石、敷均混凝土、軀體は鐵筋混  
凝土、橋體は「ゲルバー」式鋼鈹桁三徑間、鐵  
筋混凝土床版、高欄は鑄鐵製、親柱、花崗石  
角柱體、四基、一基に付燈室四個を附す。燈  
柱は各橋脚上部高欄に設け燈室各二個宛を取  
付たり。下部工事は昭和七年八月着手十二  
月末終了、上部鋼鈹桁は大阪鐵工所に於て製  
作せしめ架設は昭和八年三月「ポスト」を立  
て横取せり、床版混凝土は配合 1. 2. 4. を三區

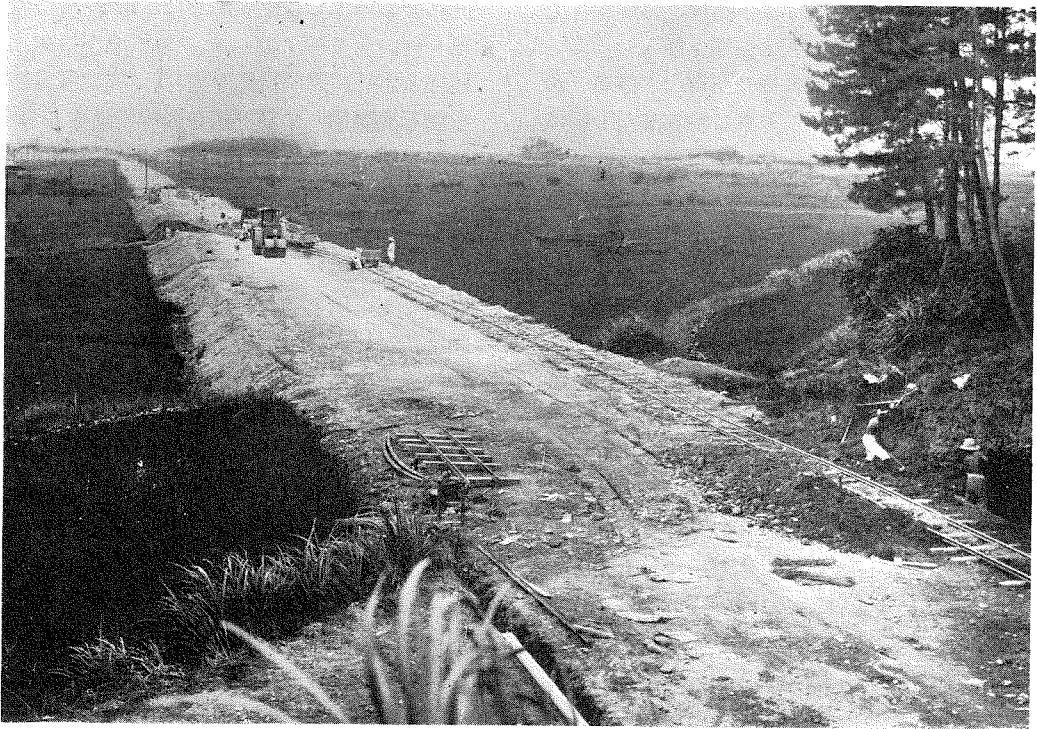
間に分ち施工し、橋面鋪裝は車道厚 5 榑歩道  
厚 2 榑の「アスファルト、ブロック」を施工  
親柱並燈柱に照明設備を施せり。（寫眞参照）

明石高架橋 山陽鐵道を跨線横斷するもの  
にして延長 153.79 米（内軌道跨線橋延長 12.76  
米）有効幅員 6 米、構造は橋臺、基礎杭生松  
丸太長 5.2 米末口 18 榑、根固栗石、敷均混  
凝土、軀體、鐵筋混凝土（平混凝土、橋脚は基  
礎は橋臺に同じ、軀體は鐵筋混凝土、橋體三徑  
間連續鐵筋混凝土框構桁及鐵筋混凝土單桁、  
跨線橋は下路鋼鈹桁、鐵筋混凝土床版とし、  
高欄は鐵筋混凝土を主體とし人造石洗出とせ  
り、花崗石親柱四基の上に照明設備を設く。  
本工事は昭和七年八月明石川方より橋脚基礎  
工事に着手順次工を進め一方跨線橋鋼鈹桁は  
三菱造船所に製作せしめ昭和八年八月夜間電  
車運轉休止後架設せり。

林崎橋、平岡橋、寶殿橋は何れも山陽本線  
を跨線横斷するものにして計畫工事方法等は

(14) 林崎跨線橋架設夜間作業狀況（昭和七年度施工）





(15) 御國野村附近路床工事状況 (昭和八年度施工)

鐵道當局と充分協議を遂げ架設等重要なる作業の際は鐵道當局立會の下に主として夜間運轉休止の間を見計ひ施行する等遺憾なきを期したり。尙他に個所の橋梁を施工し御國野村地内天川橋外一個所は目下施工中なり。

【用地及地上物件】 道路改良用地買収及地

上物件移轉補償價は各公私資料に基き又精密なる實地調査の後審議決定し土地物件所有者に協議す、而して道路の法敷は大體に於て工費の節約と沿道土地所有者の將來の利便等を考慮し之れを買収せず所有者の承諾を得て無償使用することとせり。

### 山口貯水池設計の要項

埼玉縣入間郡山口村大字上山口に土堰堤を築き、山口、宮寺、元狹山、東京府西多摩郡石畑及北多摩郡村山の各村に跨りて貯水池を設け、羽村村山線終點附近より引入水路を分岐し、多摩川の流量豊富なるとき同線を経て之に導水す。其の満水有効容積約 17,700,000 $m^3$ (636,000,000 $尺^3$ )にして、堰堤は高さ根掘敷以上 32.7m (108尺)池底以

上30.6 (101尺)長690.9m(380間)、堤頂幅7.3m (24尺)とす。(満水面の周圍約5.0里、用地面積217萬坪、満水面積50萬坪)、堰堤の南端に近く取水塔を設け、塔内に引入れたる水は引出隧道に依り山口線導水渠に導き、尙取水塔に接近して餘水吐を設け、貯水池満水位以上の餘水を柳瀬川に放流するものとす (詳細工事畫報昭和七年十月號 3—35頁參照)